2022 年 9 月 20 日

植生学会会員各位

植生学会会長・運営委員選挙管理委員会
委員長　川田清和
委員　　比嘉基紀
川西基博

2022 年 8 月 21 日に投票が締め切られた植生学会会長ならびに植生学会運営委員選挙の開票作業を 8 月 31 日に開催された選挙管理委員会で行い，以下のような結果となりましたので，ここに報告します．会長ならびに運営委員の任期は，2023 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までです．

会長　投票数 107（有効票 103，無効票 4）

当選　上條隆志　58 票
前迫ゆり　15 票
石田弘明　7 票
永松　大　4 票

全国選出運営委員（1 号委員）投票数 535（有効票 450，無効票 85）

吉川正人　36 票　2 号委員
当選　永松　大　31 票
澤田佳宏　20 票　2 号委員
当選　島田和則　17 票
当選　平吹喜彦　17 票
当選　黒田有寿茂　16 票
当選　石田弘明　16 票
井田秀行　14 票　2 号委員
冨士田裕子　14 票

地区選出運営委員（2 号委員）

北海道・東北地区　投票数 22（有効票 16，無効票 6）

当選　浜田　拓　3 票
持田　誠　2 票
島田直明　2 票
佐藤雅俊　2 票
平吹喜彦　2 票　1 号委員

関東地区　投票数 135（有効票 107，無効票 28）

当選　大橋春香　13 票　辞退
当選　吉川正人　8 票
当選　設樂拓人　7 票
川田清和　6 票
松井哲哉　6 票
島田和則　6 票　1 号委員

中部地区　投票数 24（有効票 18，無効票 6）

当選　井田秀行　3 票
富田啓介　2 票
蛭間　啓　2 票
長池卓男　2 票
大窪久美子　2 票

近畿地区　投票数 30（有効票 21，無効票 9）

当選　澤田佳宏　4 票
黒田有寿茂　3 票　1 号委員
松村俊和　3 票
石田弘明　3 票　1 号委員
藤原道郎　3 票

中国・四国地区　投票数 20（有効票 14，無効票 6）

当選　鐵慎太朗　4 票
太田　謙　2 票
久保満佐子　2 票
永松　大　2 票　1 号委員

九州・沖縄地区　投票数 26（有効票 19，無効票 7）

当選　野宮治人　5 票
西脇亜也　5 票
増井太樹　2 票
山川博美　2 票
谷口真吾　2 票

Ⅰ．運営委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した．

1. [R04-001: 採決] 運営委員会推薦会長候補者の選出について審議し，承認された（審議期間 2022 年 7 月 1 日から 7 月 10 日）．
2. [R04-002: 採決] 2022 年度植生学会各賞受賞者の決定について審議し，承認された（審議期間 2022 年 8 月 31 日から 9 月 9 日）．
3. [R03-003: 報告] 植生学会功労賞の辞退について，報告された（報告日 2022 年 9 月 26 日）．

2022 年 5 月 21 日に運営委員会（オンライン会議）を開催した．審議事項は以下の通り．

1. 2021 年度収支決算（別掲 1，2）について審議し，承認された．
2. 亀井基金の予算執行計画の見直しについて審議し，承認された．
3. 2022 年度収支予算（別掲 3，4）について審議し，承認された．
4. 役員選挙の実施について審議し，承認された．

2022 年 10 月 10 日に運営委員会（オンライン会議）を開催した．提案事項は以下の通り．

1. 次回大会についてハイブリッド方式による開催を検討することが提案された．
2. 次回の大会とフィールド研修について分離方式による開催を検討することが提案された．
3. 国際シンポジウムの企画案について提案された．

Ⅱ．編集委員会報告

2022 年 5 月 7 日に編集委員会（オンライン会議）を開催した．審議事項は以下の通り．

1. 編集委員会の 2022 年度予算案について審議した．
2. メール審議により 2022 年度論文賞の受賞候補論文 1 件を選定し，6 月 27 日に表彰委員長に報告した．

2022 年 9 月 12 日から 22 日に編集委員会（メール会議）を開催した．審議事項は以下の通り．

1. 交換図書の停止について審議し，承認された．

Ⅲ．企画委員会報告

企画委員会（メール会議）を随時開催した．報告事項および審議事項は以下の通り．

1. 若手研究者研究助成候補者を募集した（募集期間2022年7月20日から8月19日）が，応募者がいないため候補者なしとなった．
2. 2022年7月28日に植生学会書籍の責任編集者から分担著者に執筆依頼が実施された．
3. 2022年9月18日に筑波大学山岳科学センター川上演習林においてトレーニングスクール（野外調査編）を開催した．参加者は20名（うち現地スタッフ5名）であった．

Ⅳ．表彰委員会報告

2022 年 4 月 15 日に表彰委員会（オンライン会議）を開催した．報告事項および審議事項は以下の通り．

1. 「2021 年度活動記録」等の資料をもとに，昨年度の活動を振り返った．
2. 4 賞（学会賞，奨励賞，功労賞，特別賞）および研究発表賞（口頭発表・ポスター）の公募・選考・授与にかかわるスケジュールを検討し，2021 年度に準じて進めることとした．
3. 表彰委員会の 2021 年度決算と 2022 年度予算案が提示され，承認された．

2022 年 8 月 17 日に表彰委員会（オンライン会議）を開催した．報告事項および審議事項は以下の通り．

1. 2022 年度奨励賞 1 名，功労賞 1 名の受賞候補者（公募期間 2022 年 6 月 9 日から 8 月 15 日）について審議し，承認された．
2. 第 27 回大会における各賞受賞者の表彰，および研究発表プログラムの作成について確認し，大会支援委員会の下で実務を進めることとした．
3. 各賞の理念や候補者の公募・選定に関して意見交換を行い，諸規則の微修正や広く公募を得るための方策について具体的に検討した．

2022 年 9 月 14 日に功労賞候補者から辞退の申し出があったため，幹事による検討を踏まえて，功労賞の表彰を取り下げた．

2022 年 10 月 22 日にオンラインで開催された第 27 回大会において，研究発表プログラムの作成，研究発表賞選考の企画・運営，受賞式の企画・運営を，大会支援委員会の下で実施した．

Ⅴ．群集属性検討委員会報告

群集属性検討委員会（オンライン会議）を随時開催した．報告事項は以下の通り．

1. 検討すべき対象の群集単位とその属性を整理した．
2. 凡例以外でこれまで公表された群集単位を高木林，低木林，草原に分けて網羅した．
3. 植物群系について気候的土地的環境や植生相観で表現する方法を整理した．
4. 環境省凡例検討部会と植生学会群集属性検討委員会の整理結果を共有した．
5. 公開方法について編集委員会と協議し，植生学会誌で公表する方針で調整することを確認した．

Ⅵ．大会支援委員会報告

2022 年 4 月 9 日に大会支援委員会（オンライン会議）を開催した．報告事項および審議事項は以下の通り．

1. 一般講演・総会・表彰式は Zoom を利用し，2022 年 10 月 22 日に東京農工大学が中心となってオンライン特設会場で実施することを確認した．
2. フィールド研修は，2022 年 9 月 17 日に筑波大学が中心となって開催することを確認した．
3. フィールド研修は筑波大学八ヶ岳演習林および白駒池で実施する計画が報告された．
4. 口頭発表は 2 会場で実施することを確認した．
5. ポスターは Google Drive を利用し，数日前から閲覧可能にすることを確認した．
6. 懇親会は Ovice を利用し，オンラインで開催することを確認した．
7. 総会は大会不参加者も参加でき，かつ非会員の大会参加者には公開しないように，大会とは別にオンライン会場を設けることを確認した．
8. 大会参加費およびフィールド研修参加費について検討した．
9. 開催経費の納入方法と期限について検討した．
10. 大会実行委員会および大会支援委員会の体制および業務分担について確認した．
11. 植生情報への掲載記事について検討した．

2022 年 7 月 1 日に第 27 回大会参加申し込みおよび一般講演，フィールド研修，トレーニングスクールの受付を開始した．

2022 年 9 月 17 日に筑波大学山岳科学センター川上演習林および八ヶ岳演習林においてフィールド研修を開催した．参加者は 40 名（うち現地スタッフ 5 名）であった．

Ⅶ．将来検討委員会報告

2022 年 5 月 21 日の運営委員会において将来検討委員会の活動と 2021 年度将来計画（案）を報告した．2022 年 3 月に実施した会員に対する意見聴取の結果を公開することが要望された．

2022 年 9 月 12 日に 2021 年度将来計画の答申を提出した．

Ⅷ．2022 年度総会報告

2022 年 10 月 22 日に 2022 年度総会（オンライン会議）が開催され，以下の事項が報告された．

1. 学会事務局報告

2022 年 5 月 10 日現在の会員数(正会員 443 名，団体会員 11 団体，賛助会員 1 団体）が報告された．

役員任期の変更について承認されたことが報告された．

2. 各種委員会報告

上記 I～IV の運営委員会，各種委員会の審議事項が報告された．

3. その他

第 28 回大会の運営代表者として甲南女子大学の松村俊和氏より大会について対面とオンラインのハイブリッドで開催する準備を進めることが報告された．筑波大学の上條隆志氏よりフィールド研修について釧路で開催する準備を進めることが報告された．

IX．学会賞

2022 年度の学会各賞の受賞者は以下の通り．授与式は 2022 年 10 月 22 日にオンライン大会で行われ，上條会長より各受賞者に表彰状と記念品が贈呈された．

学会賞　受賞者なし

奨励賞　深町篤子（東京水道株式会社）

功労賞　受賞者なし

特別賞　受賞者なし

論文賞　大利卓海・瀬戸美文・山下貴裕・比嘉基紀・石川愼吾．高知県の里地で生育地が減少している草地生植物の生態的特性（植生学会誌第 38 巻 2 号 147-159 頁掲載，2021 年 12 月発行）

研究発表賞

口頭発表賞　武藤　恵（筑波大学）・上條隆志（筑波大学）・Luan Chunyang（筑波大学）・小川泰浩（森林総合研究所）・石森良房（株式会社伊豆緑産）外来種を使用しない土砂流出抑制緑化工法，東京クレセントロールの植生回復効果

ポスター発表賞　平　ひかり・岡　浩平（広島工業大学環境学部）・平吹喜彦（東北学院大学教養学部）・松島肇（北海道大学大学院農学研究院）仙台市井土浦における津波 11 年後の塩性湿地の植生分布

X．植生学会第 27 回大会報告

植生学会第 27 回大会（実行委員長: 吉川 正人）が，2022 年 10 月 22 日にオンライン大会で開催された．一般講演では口頭 24 題ポスター23 題の発表申し込みがあった．大会参加申し込み数は 135 名であった．

10 月 20 日・21 日　発表者・受賞者接続テスト

10 月 22 日　一般講演，学会賞各賞授与式，総会，懇親会

一般講演の申し込みは以下のとおりであった．

<口頭発表>

A01　中国山地のアカマツ林におけるヤマザクラの生育状況　馬　思亮（鳥取大学連合農学）・永松　大（鳥取大学）

A02　保護指定樹林から見る照葉樹林の保全の現状 ～着生植物に及ぼすナラ枯れの影響～　舘林智樹・髙田喬耶・星　勇輝・丸山莉奈・山口幸汰（常葉大学社会環境学部社会環境学科）・浅見佳世（常葉大学環境防災研究科）

A03　植生ブロック移植法はニホンジカによる長期の採食を受けた林床植生の回復に有効か－三嶺さおりが原における事例－　小松有結（高知大・理工）・瀬戸美文（高知大・院・理工）・比嘉基紀（高知大・理工）・石川愼吾（三嶺の森をまもるみんなの会）

A04　外来種を使用しない土砂流出抑制緑化工法，東京クレセントロールの植生回復効果　武藤　恵（筑波大学）・上條隆志（筑波大学）・Luan Chunyang（筑波大学）・小川泰浩（森林総合研究所）・石森良房（株式会社伊豆緑産）

A05　図鑑の生態情報から草本植物の葉形質は予測できるのか？　大槻泰広・原田竜輔・瀬戸美文（高知大・院・理工）・比嘉基紀（高知大・理工）

A06　大出水後のカワラハハコの個体数から見る礫原植生の分布拡大の可能性　大庭崚輔・

浅見佳世（常葉大学環境防災研究科）

A07　河道掘削により礫河原に再生したカワラノギクの出現する植物群落の特徴　畠瀬頼子（自然環境研究センター）・阿部聖哉（電力中央研究所）

A08　水理模型実験による洪水時における河床への種子定着に関して　大石哲也（寒地土木研究所）

A09　管理停止されたコナラ二次林の伐採後の林床植生変化と群落移植による復元の試み　吉川正人・飯島　諭・向井雄紀・枝澤海里・永末るな（東京農工大・院・農）・大槻薫平（東京農工大・農）

A10　伊豆諸島の典型的な生態系が残る八丈小島におけるノヤギ駆除後の植生と生態系の回復　上條隆志（筑波大）・菊地　建・岩崎由美・森　由香（伊豆諸島自然史研究会）・樋口広芳（慶応大）・長谷川雅美（東邦大）

A11　十和田八甲田地域における昭和初期からの植生変化　松井哲哉・設樂拓人・大橋春香（森林総研）・佐々木雄大（横国大）・黒川紘子・小黒芳生・新山　馨・柴田銑江（森林総研）

A12　東京都八王子市における都市化に伴う植生変化－約 40 年間の植生図および植物相の比較から－　設樂拓人（森林総研・多摩）・小林健人（長池公園）・島田和則（森林総研・多摩）

B01　津波浸水域における湿生・水生植物の出現傾向から見た事前復興的保全の可能性　山ノ内崇志・黒沢高秀（福島大・共生）

B02　北海道根室半島に位置する歯舞湿原の維管束植物相とその希少性評価　金子和広（東京都森林事務所）・加藤ゆき恵（釧路市立博物館）・冨士田裕子（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園）

B03　霧多布湿原における植生復元試験 －昆布干場表層土砂除去後 7 年間の植生遷移－　冨士田裕子（北大植物園）・鈴木唯人（北大農学部）・元廣はるな（滋賀県）・河内直子（霧多布湿原センター）・辻　ねむ（霧多布湿原センター）・三木　昇（北ノ森自然伝習所）

B04　ビオトープにおけるクロホシクサなど湿地性植物の保全の取り組みについて　長　千佳・鈴木奨士・富山陽子・稲留康一（㈱奥村組）・上條隆志（筑波大学・生命環境系）

B05　植生図化における凡例検討のための Expert system を用いたミズナラ・コナラ林の群落分類　則行雅臣（中外テクノス(株)）・近藤博史（東京農工大学大学院農学研究院）・吉川正人（東京農工大学大学院農学研究院）・星野義延（星野ファーム＆フィールドリソーシーズ）

B06　長野県安曇野市犀川流域におけるトゲナシニセアカシアの発芽率：モデル選択とオッズで見る発芽促進の条件　島野光司（大阪産業大学）・後藤　智（信州大学）・小林　剛（香川大学）

B07　遺伝子構造からみた天然記念物のウツクシマツ自生地（滋賀県平松）の保全　前迫ゆり（大阪産大院・人間環境学）・陶山佳久（東北大院・農学）・廣田　峻（東北大院・農学）

B08　近年の風力発電事業による植生への影響変化　若松伸彦（日本自然保護協会）

B09　愛媛県佐田岬半島の植生　森定　伸（(株)ウエスコ）・岡井陽平（(株)ウエスコ）・大嶋悠也（(株)ウエスコ）・松井宏光（NPO 森からつづく道）・波田善夫（岡山県赤磐市）

B10　衛星リモートセンシングによる植生現況図作成の可能性と課題　原　慶太郎（東京情報大学）・平山英毅（東京情報大学，千葉大学）

B11　UAV 画像解析と機械学習を用いた優占種識別における植物季節情報の有用性　西脇亜也・志田有里紗（宮崎大学農学部）

B12　植生調査を支援するアプリの開発　松村俊和（甲南女子大学）

<ポスター発表>

P01　阿蘇北向谷原始林における攪乱と植生遷移段階　下城　翔（熊本大学院・理）

P02　湿地性低木シデコブシにおける幹萌芽の発生と生存　太田百音・肥後睦輝（岐阜大・社会システム経営）

P03　伊豆諸島の着生植物群集とその保全のためのギャップ分析の試み　岩下美杜（環境省）・岡島菜穂子（筑波大・生物資源）・上條隆志（筑波大・生命環境系）

P04　伊豆大島における外来草食獣キョンの食性と常緑植物に対する選択性の検討　越智郁也・上條隆志（筑波大学）・尾澤信二（東京都立大島公園）・中嶋美緒（筑波大学）

P05　伊豆大島におけるキョンによる耕作地付近のアシタバ被害と食性　石井陽大・上條隆志（筑波大学）・越智郁也・尾澤進二

P06　近年ニホンジカが分布拡大した高隈山地における植物の被食状況　川西基博・薗牟田彩音（鹿児島大・教育）

P07　奄美大島におけるリュウキュウマツ林の分布現況：2022 年の現地調査から　黒田有寿茂・石田弘明（兵庫県立大学自然・環境科学研究所）

P08　インドネシアのチーク造林地の植物種多様性低下に及ぼす林縁の影響　溝口拓朗・伊藤　哲・Adi Setiawan・光田　靖・平田令子・Yasa Palaguna Umar（宮崎大学）

P09　ケイ酸カリウム施肥が茅場の群落構造と茅生産に及ぼす影響　猪島悠太（筑波大学山岳科学学位プログラム）・川田清和（筑波大学生命環境系）

P10　The relationship between soil nitrogen ranges and photosynthetic activities of a pioneer grass species *Miscanthus condensatus* on low soil nitrogen sites in Miyake-jima Island　鄭　鵬遥（筑波大学・農学）・張　秀龍（成都生物研究所）・廣田　充・上條隆志（筑波大学）

P11　大分県九重町における草原生植物ツルフジバカマの生育地の植生～絶滅危惧種ヒメシロチョウの保全に向けて～　川野智美（九重ふるさと自然学校）・黒田有寿茂・石田弘明（兵庫県立大学自然・環境科学研究所）

P12　岐阜県のチャマダラセセリ生息地における春季の畦畔草地群落の特性と産卵状況　山下将司（信州大学大学院総合理工学研究科）・大窪久美子（信州大学農学部）・中村康弘・永幡嘉之（日本チョウ類保全協会）

P13　小笠原諸島南島の海鳥営巣地における植生と海鳥の関係　水越かのん（筑波大学）・上條隆志（筑波大学）・川上和人（森林総合研究所）

P14　田島ケ原サクラソウ自生地におけるつる植物群落の分布拡大　荒木祐二（埼玉大）・森田啓斗（埼玉大・院）・霜田航貴（埼玉大・院）

P15　津波攪乱から 10 年間の植物群集の変化―立地間の比較　富田瑞樹（東京情報大）・菅野洋（東北緑化環境保全）・平吹喜彦（東北学院大）・原　慶太郎（東京情報大）

P16　仙台湾南部海岸の「粘り強い防潮堤」における堆砂・被植の進行様態とその機構　齊藤賢治（宮城植物の会）・平吹喜彦（東北学院大学）・松島　肇（北海道大学）・岡　浩平（広島工業大学）・富田瑞樹（東京情報大学）・黒沢高秀（福島大学）

P17　三宅島 2000 年噴火被害地における約 9 年間の鳥類群集と植生の変化　須藤七海（筑波大学）・加藤和弘（放送大学）・吉川徹朗（大阪公立大学）・上條隆志（筑波大学）

P18　津波浸水地・非浸水地が混在する海岸における海浜・塩性湿地植物群落の空間的分布と種組成　佐々木晴大・黒沢高秀・山ノ内崇志（福島大学）

P19　仙台市井土浦における津波11年後の塩性湿地の植生分布　平　ひかり・岡　浩平（広島工業大学環境学部）・平吹喜彦（東北学院大学教養学部）・松島　肇（北海道大学大学院農学研究院）

P20　岩手県沿岸部の津波浸水域における水辺に生育する水草の現状　島田直明・池野昌美（岩手県大・総合政策）

P21　愛媛県の米品種と樹木方言から有用植物の利用文化の分布境界を探る　徳岡良則（農研機構・農環研）・早川宗志（ふじのくに地球環境史ミュージアム）・山﨑福容（農研機構・資源研）・木村健一郎（国際農研）・高嶋賢二（伊方町町見郷土館）・橋越清一（愛媛植物研究会）・松井宏光（愛媛植物研究会）・岡　三徳（東農大）

P22　霧ヶ峰高原におけるオオアワダチソウ優占群落への連続的な掘り取り処理と中断の影響　大窪久美子（信州大学農学部）

P23　新潟県妙高市の道路沿いにおける特定外来生物オオハンゴンソウの分布特性　斎藤達也・佐藤真夢・赤坂俊太郎（国際自然環境アウトドア専門学校）・長野康之（新潟ライチョウ研究会）

XI. 会員移動　（2022年4月1日から2022年10月22日まで）

1.　新入会員（*学生）

*中村　創　　広島大学大学院　統合生命科学研究科　統合生命科学専攻　基礎生物学プログラム

大石正明　株式会社イーエーシー　自然環境課

長　千佳　株式会社奥村組　土木本部　環境技術室　環境技術グループ

*下城　翔　熊本大学大学院　自然科学教育部　理学専攻　生物科学コース　副島研究室

*武藤　恵　筑波大学大学院　理工情報生命学術院　生命地球科学研究科　山岳科学学位プログラム

*平ひかり　広島工業大学　環境学部　地球環境学科

*舘林智樹　常葉大学　社会環境学部　社会環境学科

*溝口拓朗　宮崎大学　農学工学総合研究科造林学研究室

*佐々木晴大　福島大学　共生システム理工学研究科　生命・環境　修士課程1年

*越智郁也　筑波大学大学院　理工情報生命学術院　生命地球科学研究群　生物資源科学学位プログラム

*大槻泰広　高知大学　総合人間自然科学研究科理工学専攻

*石井陽大　筑波大学大学院　理工情報生命学術院　生命地球科学研究群　生物資源科学学位プログラム

*山下将司　信州大学　総合理工学研究科緑地生態学研究室

*木下勇輔　東京農工大学　農学部　地域生態システム学科

副島顕子　熊本大学大学院　先端科学部

*小松有結　高知大学　理工学部　生物化学科

*須藤七海　筑波大学大学院　理工情報生命学術院　生命地球科学研究群　生物資源科学学位プログラム

岩下美杜　環境省

2.　退会

守田益宗，佐々木　寧(逝去)，橘　ヒサ子，吉野由紀夫(逝去)，関岡裕明，澤田みつ子，奥井かおり，谷河 澪

3.　宛先不明

戎谷　遵，中原美穂，伊東由緑子，菅井暁乃

別掲 1. 植生学会 2021 年度一般会計収支決算（単位:円）

収入の部	予算	決算	差異	備考
前期繰り越し	3,307,222	3,307,222	0	
会費	2,762,000	2,744,000	-18,000	一般 360,学生 36,団体 10,賛助 1
バックナンバー売り上げ	20,000	9,900	-10,100	
雑収入	500,000	1,388,266	888,266	
		(201,000)		第 26 回大会経費返金
		(503,066)		著作権使用料分配金
		(684,200)		超過ページ等，著者負担分
利息	500	5	-495	
計	6,589,722	7,449,393	859,671	
支出の部	予算	決算	差異	備考
植生学会誌刊行費	2,700,000	2,591,118	108,882	第 38 巻 1 号・2 号（印刷代・発送手数料・発送用台紙・送料・振込手数料（別冊印刷費を除く））
植生情報刊行費	405,000	277,486	127,514	第 25 号（印刷代・発行手数料・振込手数料）
学会事務局経費	600,000	414,203	185,797	学会事務局・会計事務局経費を含む
編集委員会経費	20,000	11,510	8,490	
企画委員会経費	400,000	0	400,000	
表彰委員会経費	65,000	90,524	-25,524	筆耕代・記念品代等
大会補助費	300,000	300,000	0	
予備費	2,099,722	123,200	1,976,522	第 38 巻 1 号別冊印刷費 75,900 円, 第 38 巻 2 号別冊印刷費 47,300 円
計	6,589,722	3,808,041	2,781,681	
収支差額（繰り越し）	0	3,641,352		

別掲 2. 植生学会 2021 年度特別会計収支決算（単位:円）

収入の部	予算	決算	差異	備考
前期繰り越し	4,385,851	4,385,851	0	
利子	0	37	37	
計	4,385,851	4,385,888	37	
支出の部	予算	決算	差異	備考
国際学術発表助成事業	150,000	0	150,000	
国際植生学会派遣事業	150,000	0	150,000	
研究助成	150,000	150,000	0	研究助成 1 名：150,000 円
植生情報データベース化	150,000	149,480	520	群集属性検討委員会：データ入力 7～9 月分 (120,000 円)，SSD 代(29,480 円)
書籍刊行	1,000,000	0	1,000,000	
事務局経費	10,000	1,045	8,955	研究助成金及び植生情報データベース化費用振込手数料（各 440 円）, SSD 代振込手数料（165 円）
その他(雑費)	30,000	0	30,000	
計	1,640,000	300,525	1,339,475	
収支差額（繰り越し）	2,745,851	4,085,363	-1,339,512	

別掲 3. 植生学会 2022 年度一般会計収支予算（単位:円）

収入の部	2022 年度	2021 年度	差異	備考
前期繰り越し	3,641,352	3,307,222	334,130	
会費	2,692,000	2,762,000	-70,000	一般 400,学生 43,団体 11,賛助 1（5 月 16 日現在）
バックナンバー売り上げ	20,000	20,000	0	
雑収入	500,000	500,000	0	
利息	500	500	0	
計	6,853,852	6,293,298	264,130	
支出の部	2022 年度	2021 年度	差異	備考
植生学会誌刊行費	2,100,000	2,700,000	-600,000	第 39 巻 1 号・2 号

植生情報刊行費	350,000	405,000	-55,000	第 26 号
学会事務局経費	600,000	600,000	0	
編集委員会経費	20,000	20,000	0	
企画委員会経費	400,000	400,000	0	
表彰委員会経費	71,000	65,000	6,000	
大会補助費	300,000	300,000	0	第 27 回大会
予備費	3,012,852	2,099,722	913,130	
計	6,853,852	6,589,722	264,130	

別掲 4. 植生学会 2022 年度特別会計収支予算（単位:円）

収入の部	2022 年	2021 年	差異	備考
前期繰り越し	4,085,363	4,385,851	-300,488	
計	4,085,363	4,385,851	-300,488	
支出の部	2022 年	2021 年	差異	備考
国際学術発表助成事業	150,000	150,000	0	
国際植生学会派遣事業	150,000	150,000	0	
研究助成	150,000	150,000	0	
植生情報データベース化	150,000	150,000	0	
書籍刊行	1,000,000	1,000,000	0	
事務局経費	10,000	10,000	0	振込手数料等
その他(雑費)	30,000	30,000	0	
計	1,640,000	1,640,000	0	
収支差額（繰り越し）	2,445,363	2,745,851	-300,488	